

第1学年国語科指導案

平成29年10月17日
安来市立社日小学校

1 単元名 「わたしのはっけん」 (東京書籍 1年 下)

2 単元のねらい

- 身の回りの動植物を観察して、気づいたことを記録する文章を書くことに意欲的に取り組もうとする。【国語への関心・意欲・態度】
- 観察して気づいたことや思ったことなど、文章に書きたい事柄を集めている。
- 観察したものの様子が伝わるように、大きさ、形、色、動きなどについて、つながりのある文章を書いている。【書く能力】
- 言葉には、経験を伝える働きがあることに気づいている。【言語についての知識・理解・技能】

3 つけたい情報活用能力

- 仲間分けを通して複数の観点に気づき、それに沿って情報を集めることができる。
(情報の分類・収集)
- 観察して気づいたことを短冊に書くことができる。(情報の取り出し方)

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
うさぎを観察して、気づいたことを記録する文章を書くことに意欲的に取り組もうとしている。	観察して気づいたことや思ったことなど、文章に書きたい事柄を集めている。 観察したものの様子が伝わるように、大きさ、形、色、動きなどについて、つながりのある文章を書いている。	言葉には、経験を伝える働きがあることに気づいている。

5 単元の指導計画及び評価計画 (全7時間 本時 2/7)

次	時	主な学習活動	支援 ○教師の手立て ◇図書館活用教育との関わり	評価			
				関心	書く	言語	評価規準
一	1	○うさぎを観察し、気づいたことや発見したことを記録する文章を書くという学習課題を確認する。	○学習の見通しをもつことができるように、流れを説明する。	○			【関】活動に見通しを持ち、うさぎをよく見たり触れ合ったりしようとしている。(行動・発言)

		○うさぎと触れ合ったり観察したりする。	○うさぎと触れ合ったり、観察したりすることができるように環境を整える。 ○目的を持って、うさぎと触れ合うことができるように声がけをする。			
二	2 (本時)	○うさぎを観察し、発見したことや気付いたことを短冊に書く。 ○短冊に書いたことを全体で共有し、観点ごとに話し合いながら分類整理していく。 ○仲間分け後、短冊に観点となることばを書く。	○児童の言葉を大切にするために、発見したことを自由に書くように声がけする。 ◇情報の取り出し方 ○児童が書いた短冊を黒板に貼り、話し合いながら観点別に分類していく。 ○観点別にまとめることができないものも児童の考えを尊重し別枠を作り、全員で考えていく。 ◇情報の分類・収集		○	【書】短冊に書いたことばと観点を結びつけようとしている。(短冊)
	3・4	○様々な発見したことの中から3つ程度選び、「はっけんメモ」に書く。	○いくつかの観点の中から3つ程度選べるように、観点ごとに分けたものを見ることができるようにする。		○	【書】うさぎの様子を記録するために必要な事柄を理解し、実際に観察して気づいたことを「はっけんメモ」に記録している。(メモ・行動観察)
三	5・6	○「はっけんメモ」を元に、文章を書く。	○「いつ」「どこで」「何を見たか」「発見したこと」「思ったこと」の順で書かれていることを確認する。 ○原稿用紙の使用方法を確認する。 ○書き終わったら、書いた文章を声に出		○	(書) 文章に書く事柄の順序を理解している。 (書) うさぎの様子が分かるように、大きさや色、形、動きなどについて、つながりのある文章を書いている。(文章)

			して読み、誤字や脱字がないかを確認する。				
四	7	○書いた文章を読み合っ、感想を伝え合、学習したことを振り返る。	○発見したことの観点をういて感想を述べることを確認する。 ○付箋に感想を書き、書いた人に伝えることができるようにする。			○	(言) 観察したこと文章に書いて伝えることを通して、言葉には経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(行動観察・発言)

6 本時の学習

(1) 目標

短冊に書いたことばと観点を適切に結び付けることができる。

(2) 展開

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 (○) と評価 (☆)
1 前時の学習を振り返り本時の課題をつかむ。	○前時にうさぎと触れ合っ、発見したことや気づいたことを想起させる。 ○本時は発見したことを短冊に書くことを伝える。
2 うさぎを観察して発見したことを短冊に書く。 ・耳が長い。 ・ひげがある。 ・逃げる。 ・ヒクヒクしている。 ・色は白と茶色。 ・ざらざらしている。 など	○一つの短冊には一つの事柄を書くことを確認する。 ○児童の言葉を大切にするために、発見したことを、自由に書くように声がける。 ○必要に応じてうさぎを観察できるように、ケージを設置しておく。
3 グループで仲間分けをする。 ・○○と□□は似ているね。 ・「耳が長い」と「耳が大きい」は同じかな。 ・△△はどここの仲間に入るのかな。	○出てきた言葉を整理するために、グループで短冊の仲間分けをするようにする。
4 短冊を黒板に貼っ、いき、観点ごとにまとめる。 ・大きさ ・色 ・形 ・触った感じ ・性格	○グループでまとめた短冊を黒板に貼り出し、観点を言葉を考えながら分類していく。 ○仲間分けの難しい言葉も、児童から考えを引き出し、全員で観点を考えていく。

<ul style="list-style-type: none"> ・模様 ・様子 ・におい ・動き など <p>5 手元にある短冊に仲間わけした言葉を赤鉛筆で書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(色) 白とちやいろ。 ・(さわったかんじ) ふわふわしている。 ・(かたち) ながい。 ・(うごき) はねる。 など 	<p>○結びつける言葉に困っている児童には、個別に対応する。</p> <p>☆短冊に書いたことばと観点を結びつけている。(短冊)</p> <p>○本時の学習を振り返り、たくさんの発見があったことを認め、次時からは「はっけんメモ」に発見したことを書き、それを元に文章を書いていくことを伝える。</p>
---	---

(3) 本時の評価

十分満足できると判断される児童生徒の具体例	おおむね満足できると判断される児童生徒の具体例	支援を必要とする児童生徒への指導の手立て
短冊に書いた言葉と観点を結びつけることができ、友だちの考えを聞いて、物の見方を広げることができる。	短冊に書いた言葉と観点を結び付けることができる。	自分が書いた言葉がどの観点到に当てはまるのかを個別に確認したり、友だちと一緒に考えたりする。

8 研究の視点

観点別に分類整理するために、短冊に書いたことは有効であったか。